



平成24年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月9日

上場会社名 オエノンホールディングス株式会社

上場取引所 東 大 名 札

コード番号 2533 URL <http://www.oenon.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 幸夫

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション室長 (氏名) 牛込 真澄

TEL 03-3575-2777

四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第3四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第3四半期	59,827	2.6	1,633	14.2	1,550	11.7	832	159.5
23年12月期第3四半期	58,302	△0.6	1,430	29.7	1,388	35.8	320	△6.8

(注) 包括利益 24年12月期第3四半期 943百万円 (203.1%) 23年12月期第3四半期 311百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第3四半期	12.89	—
23年12月期第3四半期	4.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第3四半期	54,865	19,987	32.3
23年12月期	60,819	20,134	29.2

(参考) 自己資本 24年12月期第3四半期 17,727百万円 23年12月期 17,774百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	—	—	7.00	7.00
24年12月期	—	—	—	—	—
24年12月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	85,000	2.0	2,700	7.0	2,600	4.6	1,200	29.1	18.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年12月期3Q	65,586,196 株	23年12月期	65,586,196 株
24年12月期3Q	2,822,422 株	23年12月期	318,843 株
24年12月期3Q	64,541,168 株	23年12月期3Q	65,316,606 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画の元となる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10
(3) 継続企業の前提に関する注記	11
(4) セグメント情報等	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

○第3四半期決算 参考資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成24年1月1日から9月30日)におけるわが国経済は、復興需要等により、景気回復の兆しが見られたものの、欧州債務危機や中国をはじめとする新興国経済の減速、円高の長期化による影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

酒類業界におきましても、消費者の低価格志向による販売価格の下落に加え、生活防衛意識の高まりによる節約志向、また、原料価格や原油価格の不安定さ等が収益に影響を及ぼす厳しい経営環境となっております。

このような経営環境の下、当第3四半期連結累計期間の売上高は、過去最高の59,827百万円(前年同期比2.6%増)となりました。

利益面では、原材料価格及びエネルギーコストの増加がありましたものの、売上高の増加、販売費及び一般管理費の削減等により、営業利益は1,633百万円(前年同期比14.2%増)、経常利益は1,550百万円(前年同期比11.7%増)となりました。また、前年同期に東日本大震災による損失や資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響額を特別損失に計上していたため、四半期純利益は832百万円(前年同期比159.5%増)と過去最高となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、表示方法の変更を行っており、前第3四半期連結累計期間についても当該変更を反映し、当第3四半期連結累計期間の比較・分析を行っております。

また、第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称について「バイオエタノール技術実証事業」を「バイオエタノール事業」に変更しております。

【酒類事業】

酒類事業では、市場環境の変化に対応できる収益基盤の構築を進めるとともに、お客様起点の発想に立った商品開発を推進いたしました。また、取引先との共同開発によるプライベートブランド商品(PB商品)を積極的に展開し、両社の強みを活かした新しい価値の最大化に取り組んだ結果、酒類事業合計の売上高は53,263百万円(前年同期比3.3%増)と増収となりました。利益面につきましては、売上高の増加のほか、販売費及び一般管理費の削減等により、営業利益は750百万円(前年同期比95.7%増)と大幅な増益となりました。

酒類事業のうち焼酎においては、甲類焼酎「ビッグマン」や本格焼酎「博多の華 黒麹」、甲類乙類混和焼酎「麦盛り」シリーズ等の主力商品を中心とした消費者キャンペーンを積極的に実施し、また、PB商品が好調に推移したため、焼酎全体の売上高は28,894百万円(前年同期比1.9%増)となりました。

チューハイ、カクテル等の低アルコール飲料においては、アルコール分2%の「ほろっと」やアルコール分3%の「カクテルタイム」等、アルコール分控えめの新シリーズを発売するなど、飲用層の拡大に努めましたが、売上高は5,565百万円(前年同期比1.7%減)となりました。

清酒においては、家庭用市場向けの値頃感がある手軽な紙パック商品の販売数量は増加したものの、商品構成の変化により、売上高は5,407百万円(前年同期比1.2%減)となりました。

合成清酒においては、トップブランドの「元禄美人」を中心に、業界トップシェアを維持したものの、需要が減退し、売上高は2,875百万円(前年同期比5.9%減)となりました。

アルコールにおいては、化粧品や味噌、製剤等に使用される工業用アルコールが大幅に伸張し、甲類焼酎や清酒等に使用される酒類原料用アルコールも増加した結果、アルコール全体の売上高は4,611百万円(前年同期比29.0%増)と大幅な増収となりました。

そのほか、みりんなどを含めた和酒部門全体の売上高は47,778百万円(前年同期比2.6%増)と増収となりました。

洋酒では、梅酒において、しそ焼酎「鍛高譚(たんだかたん)」と同じ原料を使用した「鍛高譚の梅酒」が好調なほか、主力商品「あっさり梅酒」のリニューアルとあわせて、「あっさり黒糖梅酒」を新発売しました。その結果、梅酒全体の売上高は前年同期と比較して増加いたしました。

ワインにおいては、手軽にご家庭でも楽しめる値頃感のある商品や国際的なコンクールでメダルを受賞したワインなどが好調に推移したため、ワイン全体の売上高は前年同期と比較して大幅に増加いたしました。

その他の洋酒においては、トマトのお酒「ラ・トマト」を中心とする「ラ・」シリーズから「ラ・とろり梅」を新発売したほか、PB商品のウイスキーが売上を牽引し、売上高は大幅に増加いたしました。

その結果、洋酒部門全体の売上高は4,423百万円(前年同期比14.0%増)となりました。

その他の部門については、飲食店等の売上が減少した結果、売上高は1,061百万円(前年同期比5.0%減)となりました。

【加工用澱粉事業】

加工用澱粉事業については、ビール醸造用コーングリッツが増加したものの、シリアル食品用コーングリッツが減少したため、売上高は2,920百万円(前年同期比1.1%減)となりました。しかしながら、営業利益は、売上原価、販売費及び一般管理費の低減により、151百万円(前年同期比4.4%増)となりました。

【酵素医薬品事業】

酵素部門では、国内における乳糖分解酵素等が伸張したことにより、売上高は増加いたしました。

原薬部門では、糖尿病治療用原薬が伸張したことにより、売上高は増加いたしました。

診断薬部門では、便潜血検査試薬等が伸張したことにより、売上高は増加いたしました。

その結果、酵素医薬品事業全体の売上高は2,555百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益は544百万円(前年同期比8.6%増)となりました。

【不動産事業】

不動産事業は、賃貸借契約の減少があったため、売上高は292百万円(前年同期比5.0%減)となり、営業利益は207百万円(前年同期比3.9%減)となりました。

【バイオエタノール事業】

バイオエタノール事業については、販売数量の減少により、売上高は755百万円(前年同期比20.8%減)となりました。さらに、本年1月に苫小牧工場にて発生した出火事故の影響で一部製造設備が停止し、工場稼働率が低下したため、32百万円の営業損失(前年同期は176百万円の営業利益)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、54,865百万円となり、前連結会計年度末と比較し5,954百万円の減少となりました。これは主に季節要因による売上高の減少により、受取手形及び売掛金等が減少したことによるものであります。

負債につきましては、34,877百万円となり、前連結会計年度末と比較して5,807百万円の減少となりました。これも主に季節要因による売上高の減少による未払酒税及び未払金の減少、および借入金が増加したことによるものであります。

純資産につきましては、19,987百万円となり、前連結会計年度末と比較して146百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金およびその他有価証券評価差額金が増加した一方で、自己株式を取得したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期累計期間の実績を踏まえ、平成24年2月10日に公表いたしました数値を以下のとおり修正しております。

(平成24年12月期通期連結業績予想数値の修正)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	85,000	2,650	2,500	1,200	18.39
今回発表予想(B)	85,000	2,700	2,600	1,200	18.72
増減額(B-A)	—	50	100	—	
増減率(%)	—	1.9	4.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成23年12月期)	83,361	2,523	2,486	929	14.23

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

表示方法の変更

従来、一部の連結子会社において発生するみりん等に係る拡売費及び決算日時点の一部未払拡売費について「販売費及び一般管理費」に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より「売上高」から直接控除して表示する方法に変更しております。この変更は、適正な販売取引を実行するために拡売費を明瞭にするという当社グループの方針を踏まえ、実質的な売上高を明確にし、営業活動の成果をより適切に表示するために行ったものであります。

当該表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替を行っております。この結果、前第3四半期連結累計期間の売上高及び売上総利益が21百万円減少し、販売費及び一般管理費が同額減少しておりますが、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,737	1,720
受取手形及び売掛金	22,918	17,391
有価証券	5	—
商品及び製品	6,767	7,102
仕掛品	330	352
原材料及び貯蔵品	1,374	1,510
繰延税金資産	865	756
その他	831	933
貸倒引当金	△21	△20
流動資産合計	34,809	29,746
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,503	25,410
減価償却累計額	△16,148	△16,595
建物及び構築物（純額）	9,355	8,814
機械装置及び運搬具	30,659	30,998
減価償却累計額	△26,033	△26,830
機械装置及び運搬具（純額）	4,625	4,167
その他	2,401	2,404
減価償却累計額	△2,031	△2,083
その他（純額）	370	320
土地	8,835	8,835
建設仮勘定	59	134
有形固定資産合計	23,246	22,274
無形固定資産		
のれん	538	534
その他	629	547
無形固定資産合計	1,168	1,082
投資その他の資産		
投資有価証券	1,032	1,081
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	158	288
その他	415	414
貸倒引当金	△12	△22
投資その他の資産合計	1,594	1,762
固定資産合計	26,009	25,118
資産合計	60,819	54,865

オエノンホールディングス(株)(2533)平成24年12月期第3四半期決算短信

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,313	6,246
短期借入金	6,860	5,037
リース債務	58	60
未払金	4,551	3,407
未払酒税	9,745	7,471
未払法人税等	639	371
賞与引当金	57	406
役員賞与引当金	41	38
設備関係支払手形	288	587
災害損失引当金	22	—
その他	1,257	963
流動負債合計	29,835	24,590
固定負債		
長期借入金	5,810	5,060
長期預り金	3,273	3,303
リース債務	129	105
退職給付引当金	1,219	1,226
資産除去債務	148	135
繰延税金負債	148	311
その他	121	145
固定負債合計	10,849	10,287
負債合計	40,685	34,877
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,946	6,946
資本剰余金	5,576	5,576
利益剰余金	5,353	5,728
自己株式	△75	△559
株主資本合計	17,800	17,691
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△32	37
繰延ヘッジ損益	6	△2
その他の包括利益累計額合計	△26	35
少数株主持分	2,359	2,260
純資産合計	20,134	19,987
負債純資産合計	60,819	54,865

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	58,302	59,827
売上原価	46,888	48,504
売上総利益	11,414	11,323
販売費及び一般管理費	9,983	9,689
営業利益	1,430	1,633
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	17	15
受取賃貸料	57	58
負ののれん償却額	122	42
雑収入	32	32
営業外収益合計	231	149
営業外費用		
支払利息	234	185
雑損失	39	46
営業外費用合計	273	232
経常利益	1,388	1,550
特別利益		
固定資産売却益	0	0
受取補償金	—	113
国庫補助金等受贈益	—	173
ゴルフ会員権償還益	12	—
その他	10	52
特別利益合計	22	339
特別損失		
固定資産除売却損	10	27
減損損失	—	79
ゴルフ会員権評価損	1	—
投資有価証券評価損	0	65
災害による損失	445	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	132	—
その他	42	3
特別損失合計	633	175
税金等調整前四半期純利益	777	1,715
法人税等	412	833
少数株主損益調整前四半期純利益	364	881
少数株主利益	44	49
四半期純利益	320	832

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	364	881
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△48	71
繰延ヘッジ損益	△5	△9
その他の包括利益合計	△53	61
四半期包括利益	311	943
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	266	894
少数株主に係る四半期包括利益	44	49

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分及び評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは製品・サービス等を基礎としたセグメントから構成されており、「酒類」、「加工用澱粉」、「酵素医薬品」、「不動産」、「バイオエタノール」の5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品・サービスは、次のとおりであります。

事業区分	主な製品・サービス
酒類	焼酎、チューハイ、清酒、合成清酒、梅酒、加工用洋酒、ワイン、酒類原料用・工業用アルコール、調味料、食品（副産物）、飲食店経営
加工用澱粉	加工用澱粉
酵素医薬品	酵素、原薬、診断薬、健康食品素材
不動産	不動産の売買、不動産の賃貸
バイオエタノール	バイオエタノール、エタノール蒸留粕

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	バイオエ タノール 技術実証	合計			
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	51,567	2,954	2,471	308	953	58,255	47	—	58,302
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4	—	—	—	—	4	—	△ 4	—
計	51,571	2,954	2,471	308	953	58,259	47	△ 4	58,302
セグメント利益	383	145	501	216	176	1,423	7	—	1,430

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。

2 調整額は、セグメント間の取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	バイオエ タノール	合計			
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	53,263	2,920	2,555	292	755	59,787	40	—	59,827
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	—	—	—	—	1	—	△1	—
計	53,264	2,920	2,555	292	755	59,788	40	△1	59,827
セグメント利益又は セグメント損失(△)	750	151	544	207	△32	1,622	10	—	1,633

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。

2 調整額は、セグメント間の取引消去であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

従来、一部の連結子会社において発生するみりん等に係る拡売費及び決算日時点の一部未払拡売費について「販売費及び一般管理費」に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「売上高」から直接控除して表示する方法に変更しております。

この結果、「酒類」セグメントの前第3四半期連結累計期間の売上高が21百万円減少し、販売費及び一般管理費が同額減少しておりますが、セグメント利益への影響はありません。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称について「バイオエタノール技術実証」を「バイオエタノール」に変更しております。なお、当変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成24年5月31日開催の取締役会決議により、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得しております。この自己株式の取得及び単元未満株式の買取り等により、当第3四半期連結累計期間において自己株式が484百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が559百万円となっております。